

Google Apps の授業への活用

都築 英明

看護学部

90 分間の大学授業は新入生にとって長すぎるといふ指摘は広く受け入れられている。初年次教育の重要性もこのような背景によるところが大きい。学生の理解度を測りながら、また、学生の学習意欲を維持させながら授業を進められるように計画を立てることになる。

本学では、学生メールに学生用 Gmail を利用していることから、Google Apps を活用しやすい環境にある。そこで、授業中の小テスト及び期末試験に Google Apps のアンケート機能（フォーム）を利用したところ、学生の理解度を迅速に把握でき、また、期末試験の採点や学生へのフィードバックが迅速にできるようになり、よりきめ細かい指導が可能になった。テキストベースで作成した試験問題があればコピー＆ペーストにより容易にフォームを作成でき、図や写真の挿入も可能である。一度作成したフォームは、再利用可能であり、ホームページに組み込むことで、学生の復習に有効に活用できる。スマートフォンを持たない学生への対応が課題となるが、双方向授業の支援ツールとして期待される。

4 年間の看護学部における初年次教育取り組み報告

寺谷 愉利子, 山下 八重子, 他看護学部教員一同, 中山 登稔, 都築 英明

看護学部

「学士課程教育の構築に向けて（2008 年中教審答申）」で「卒業させる学生の質」の改善が求められ、最近では、学力の三要素「①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性」を軸として、高校教育と大学教育、それらを繋ぐ大学入学者選抜の一体的革新が進められている。当看護学部では助産師コース新設に向け 2010 年 8 月から「看護学部新カリキュラムワーキンググループ」で初年次教育についても検討した。今回、2012 年からの 4 年間の看護学部における初年次教育取り組みを、看護学部 FD 活動の視点から報告する。本論文は初年次教育の取り組みの報告で終わった。今後、初年次教育の取り組みを学習成果データとして蓄積、IR（Institutional Research）と FD（Faculty Development）の視点で分析・内省して、学部だけでなく学内全体で取り組む必要がある。